

参考文献等（参考にした書物等）

第 19 回 富栄養化と窒素・リン

- ・ Anderson IM et al. (2020) Nitrate, ammonium, and phosphorus drive seasonal nutrient limitation of chlorophytes, cyanobacteria, and diatoms in a hyper-eutrophic reservoir. *Limnology & Oceanography* 65, 962-978.
- ・ Carlson R.E. and J. Simpson (1996) A Coordinator's Guide to Volunteer Lake Monitoring Methods. *North American Lake Management Society*. 96 pp.
- ・ 宗宮功（編著）（2000）．「琵琶湖 その環境と水質形成」．技報堂出版

第 20 回 底泥からの栄養塩の溶出

- ・ 菊地哲郎、北村立実、大内孝雄（2018）．「北浦北部流域における非灌漑期平水時の河川水質に及ぼす流域の土地利用・地形特性の影響」．茨城県霞ヶ浦環境科学センター年報 No. 14, 42-51
- ・ 桑名美恵子（2021）．「霞ヶ浦の水質と水循環 ～めぐりめぐる水～」．茨城県霞ヶ浦環境科学センター 令和 3 年度霞ヶ浦学講座 第 10 講
- ・ 茨城県（1985）．「霞ヶ浦底泥対策検討調査概要」
- ・ 岩佐義郎（1990）．「湖沼工学」．山海堂
- ・ 環境庁 国立公害研究所（1977）．「陸水域の富栄養化に関する総合研究」．国立公害研究所研究報告 第 1 号
- ・ 環境庁 国立公害研究所（1979）．「陸水域の富栄養化に関する総合研究（Ⅱ） 一霞ヶ浦を中心として一」．国立公害研究所研究報告 第 6 号
- ・ 環境庁 国立公害研究所（1981）．「陸水域の富栄養化に関する総合研究（Ⅲ） 霞ヶ浦（西浦）の湖流」．国立公害研究所研究報告 第 19 号
- ・ 環境庁 国立公害研究所（1981）．「陸水域の富栄養化に関する総合研究（Ⅵ） 霞ヶ浦の生態系の構造と生物現存量」．国立公害研究所研究報告 第 22 号
- ・ 環境庁 国立公害研究所（1984）．「陸水域の富栄養化防止に関する総合研究（Ⅱ） 霞ヶ浦の生態系の物質循環とそれを支配する因子：浅い湖における底泥の役割」．国立公害研究所研究報告 第 51 号
- ・ 環境庁 国立公害研究所（1986）．「自然浄化機能による水質改善に関する総合研究（Ⅱ） 水草帯・河口域・湖沼の生態系構造と機能」．国立公害研究所研究報告 第 96 号
- ・ 環境庁 国立公害研究所（1988）．「自然浄化機能による水質改善に関する総合研究（Ⅵ） 湖沼の生態系構造と自然浄化」．国立公害研究所研究報告 第 117 号
- ・ 西條八束、三田村緒佐武（1995）．「新編湖沼調査法」．講談社